



▲山からシカが下りてこないように張られたネット

そのため、山からシカが下りてこないようにネットを張り、田や畑をイノシシに荒らされないように、電気柵を設置するなどの防除施設による対策がされています。

南丹市でも、野生鳥獣による農林業被害の防止を図るため、防除施設の設置に対して一定の交付基準を設けて補助金を交付しています。

防除施設による被害対策のほかにも、生活の中でできる対策があります。残飯などの生ゴミや不要になった農作物、果実などは、放置すると動物たちがそれを食料として被害



▲イノシシやシカを田畑に入れないようにする電気柵

するので、絶対に放置しないでください。特にこれからの時期はクマが庭の柿を食べに来ることがありますので、不要な柿の実は処分をしてください。

南丹市野生鳥獣被害対策運営協議会の活動

南丹市では市内の野生鳥獣による農林水産物などの被害について対策をしていくため「南丹市野生鳥獣被害対策運営協議会」(会長 杉森寛園部町森林組合長)を平成十八年一月に設立しました。

協議会は市内の森林組合、



▲審議会では野生鳥獣被害の対策が検討されます

農業団体、猟友会などから二十一人の委員で構成されています。今年四月十一日の会議では、平成十八年度の被害と捕獲数が報告されました。主な野生鳥獣捕獲数はシカが千四百一十一頭、イノシシが百四十六頭、サルが三十頭でした。また、平成十九年度の被害を最小限にするための捕獲計画が話し合われ、計画的な捕獲活動を現在、実施しています。

野生鳥獣の捕獲について

南丹市の猟友会には、現在

百七人が登録されており、毎年十一月十五日から翌年二月十五日までの狩猟期と、それ以外の期間は網などによる捕獲活動を年間を通してお世話になっています。

しかし、近年は猟友会の会員の高齢化や後継者不足という問題で、計画的な捕獲活動がままならないのが現状です。南丹市では被害を及ぼす恐れのある野生鳥獣の捕獲を行うことを目的とする狩猟免許の資格取得に対して補助を行う制度を設けています。

クマによる被害を 出さないために

クマ(ツキノワグマ)による被害で、最も大きいものが「クマはぎ」による林業被害です。「クマはぎ」とは、スギやヒノキなど長い年月をかけて育ててきた樹木の皮をクマがはがすことをいいます。

この被害対策として、防護用テープを張るなどして被害の軽減を図っています。また、「クマはぎ」による被害のほかに、民家周辺へ出没する被害もあります。山から下りて



イノシシ

里山を中心に生息し、鼻の力が強く、高くジャンプしたり、狭いすき間に潜り込んだりします。体長は百二十〜百五十センチくらい、体重七十〜百四十キログラムくらいで、突進したときの破壊力はすさまじいものです。一方でその体格の割に、狭いすき間でもくぐり抜けることができます。また、弾丸型の体型はやぶ山の移動に適しています。

性格は臆病で、主に人のいない夜間に活動しています。雑食性で、地面を掘り起こしては地中にある動植物(植物の根茎やタケノコ、ミミズなど)、ドングリなどの果実や昆虫のほか、カエルやヘビ、カニなどを食べます。繁殖力も強く、普通、春(四〜六月)に一度、一回に四〜五頭ほどを出産し、そのうちの半数が育つといわれています。